

高正臣教授追悼号によせて

著者	津戸 正広
引用	大阪府立大学経済研究. 2009, 55(3)
URL	http://hdl.handle.net/10466/11049

高正臣教授追悼号によせて

2009年7月19日、私たちの敬愛する高正臣教授が、ご療養中に逝去されました。教育・研究に大活躍されていた先生が、55歳という若さで亡くなられたことは、私たちにとって大きな衝撃であり、残念でなりません。

高先生は、大阪府立高校をご卒業後、大阪市立大学経済学部に入學されましたが、学部卒業後20年たって42歳のときに、税法の研究をさらに深めるために大阪府立大学経済学研究科に入學されました。博士前期課程に2年、博士後期課程に3年在籍し、2002年に博士（経済学）を取得し、修了されました。

2008年4月からは、本学経済学部教授に着任され、学部・大学院での教育や海外の大学との交流などに貢献されました。研究面では、韓国附加価値税法に精力的に取り組まれ、多くのすぐれた論説を發表されています。加えて、イギリスやカナダの附加価値税法、アメリカ税法、ドイツ売上税法、さらには固定資産課税や相続課税についても研究を進められ、附加価値税の国際比較という壮大な研究目標を達成すべく邁進しておられたので、道半ばにしてご逝去されたことは、痛恨の極みであります。

学部教育においては、租税法分野でのディベート大会に出場する学生たちを指導し、大きな教育効果を達成されています。大学院教育においては、税理士志望の院生たちに毎回真剣勝負でのぞまれ、社会人を含む多くの院生たちから慕われ、信頼されてこられました。

経済学部の委員会においても、高先生は、経済学研究科委員、教育運営委員、学生アドバイザーなどを務められ、学部の運営に力を発揮されています。

このような高先生を失ったことは、学界にとっても、経済学部にとっても、言い表しようにない痛手ではありますが、ここに高正臣教授追悼号を刊行し、私たち一同心より哀悼の意を表したいと思えます。

平成21年12月

大阪府立大学 経済学部長

津 戸 正 広